



病理ユニット 土佐 進



2015-23-1

Turkey (七面鳥) の肝臓

提出機関: ゲルフ大学



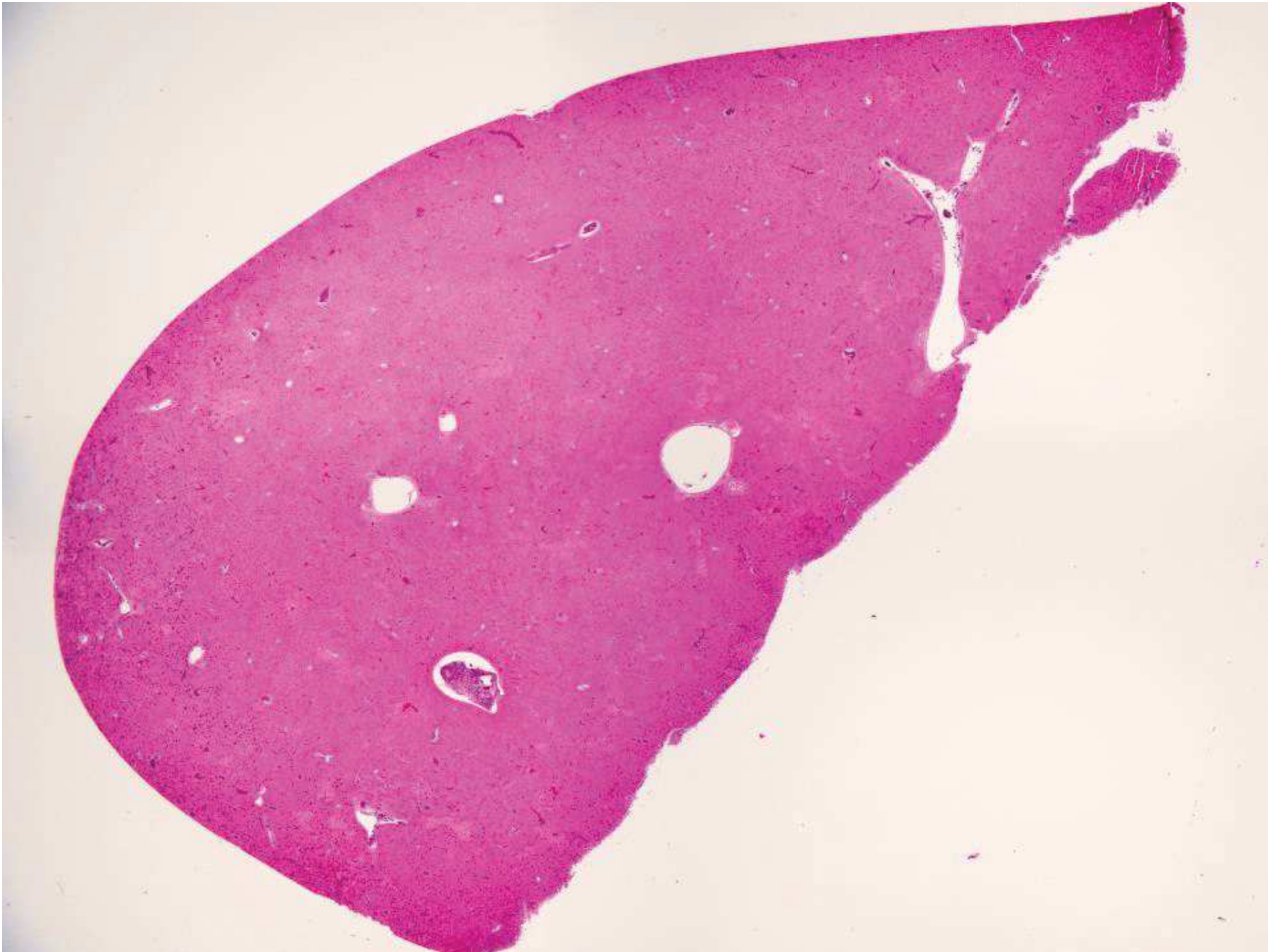
症例: Turkey (七面鳥) 11週齢 肉用 2万羽群

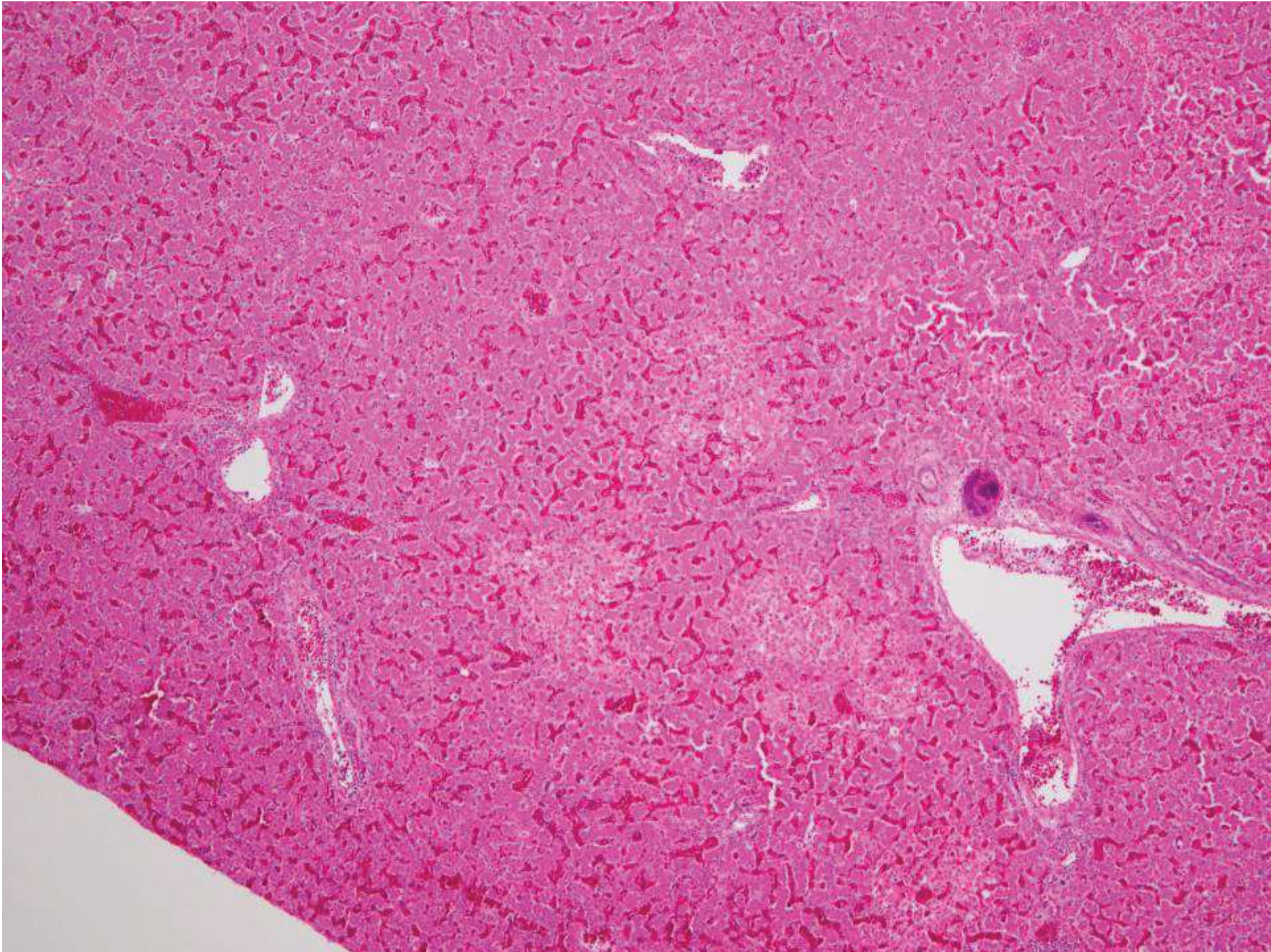
worldranch.co.jpより引用

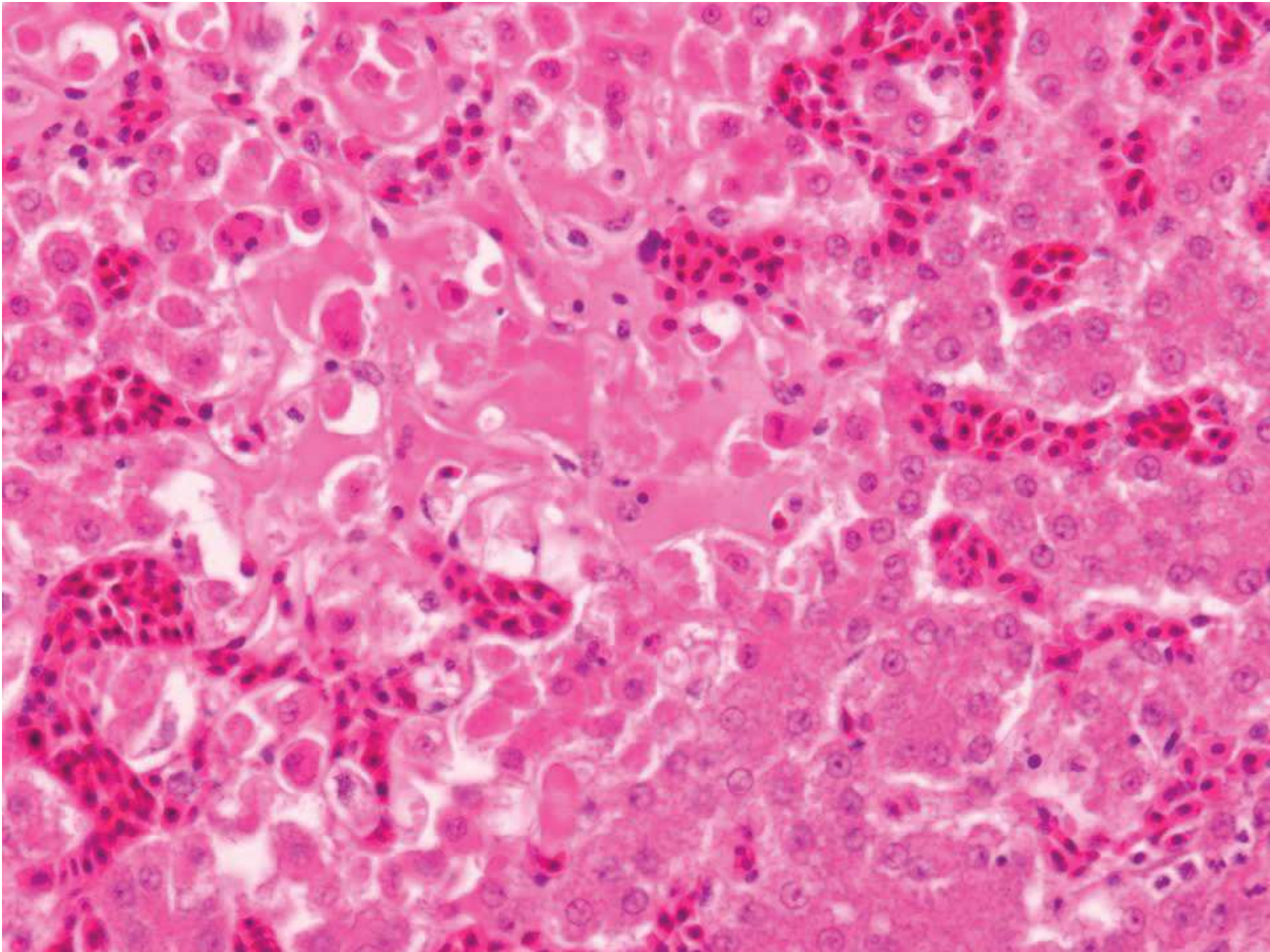
病歴: 当該群の死亡羽数が増加。群が収容されていた畜舎は汚れた床の上におがくずを敷き詰めていた。この農場では本病の発生は初めてだったが、生産者が有する別の七面鳥農場では本病の再発が問題となっていた。

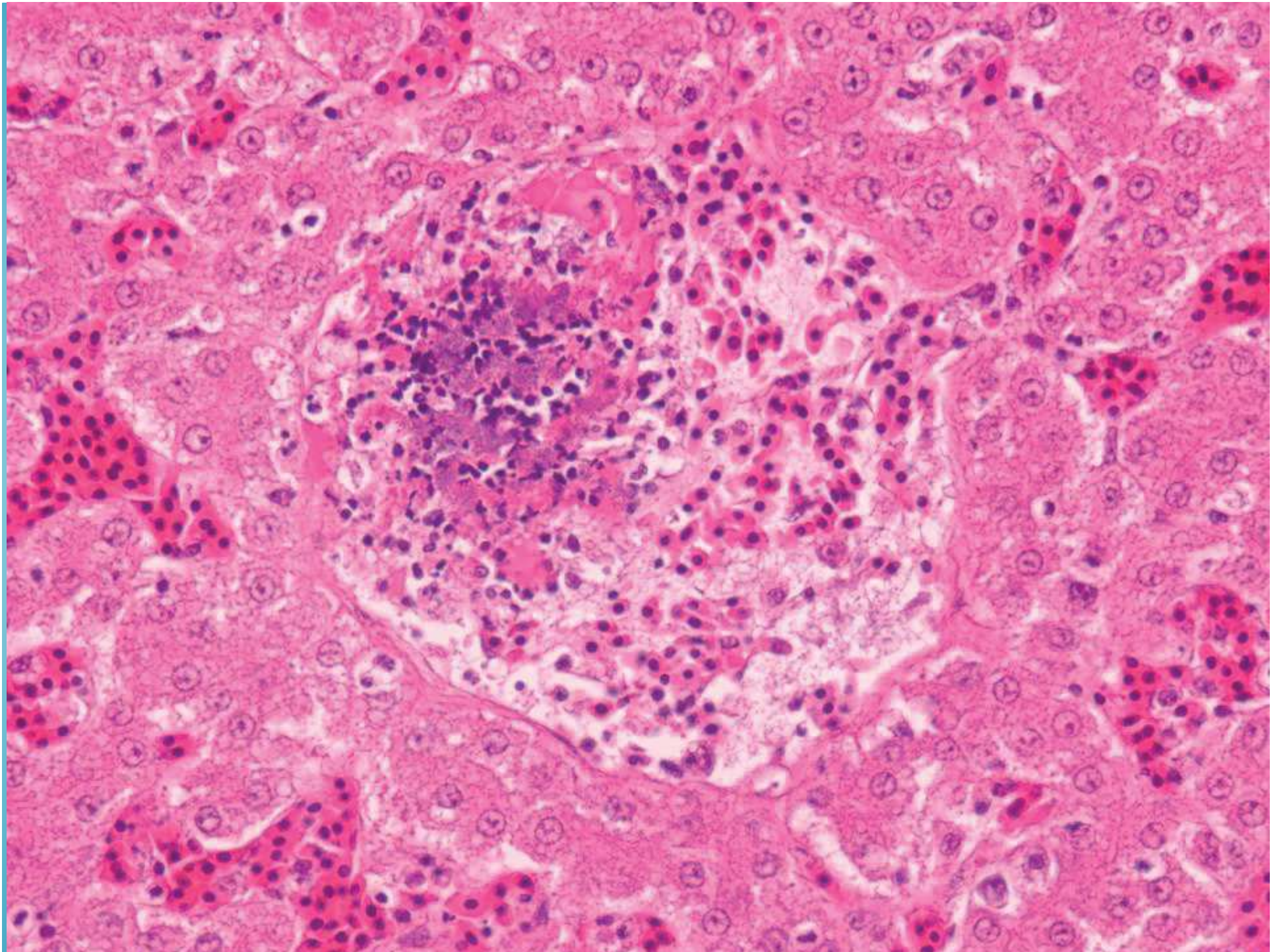
肉眼所見：剖検した七面鳥で黄色の縞模様のある腫大した肝臓および重度に腫大した脾臓を確認。腹腔内に血液が貯留。

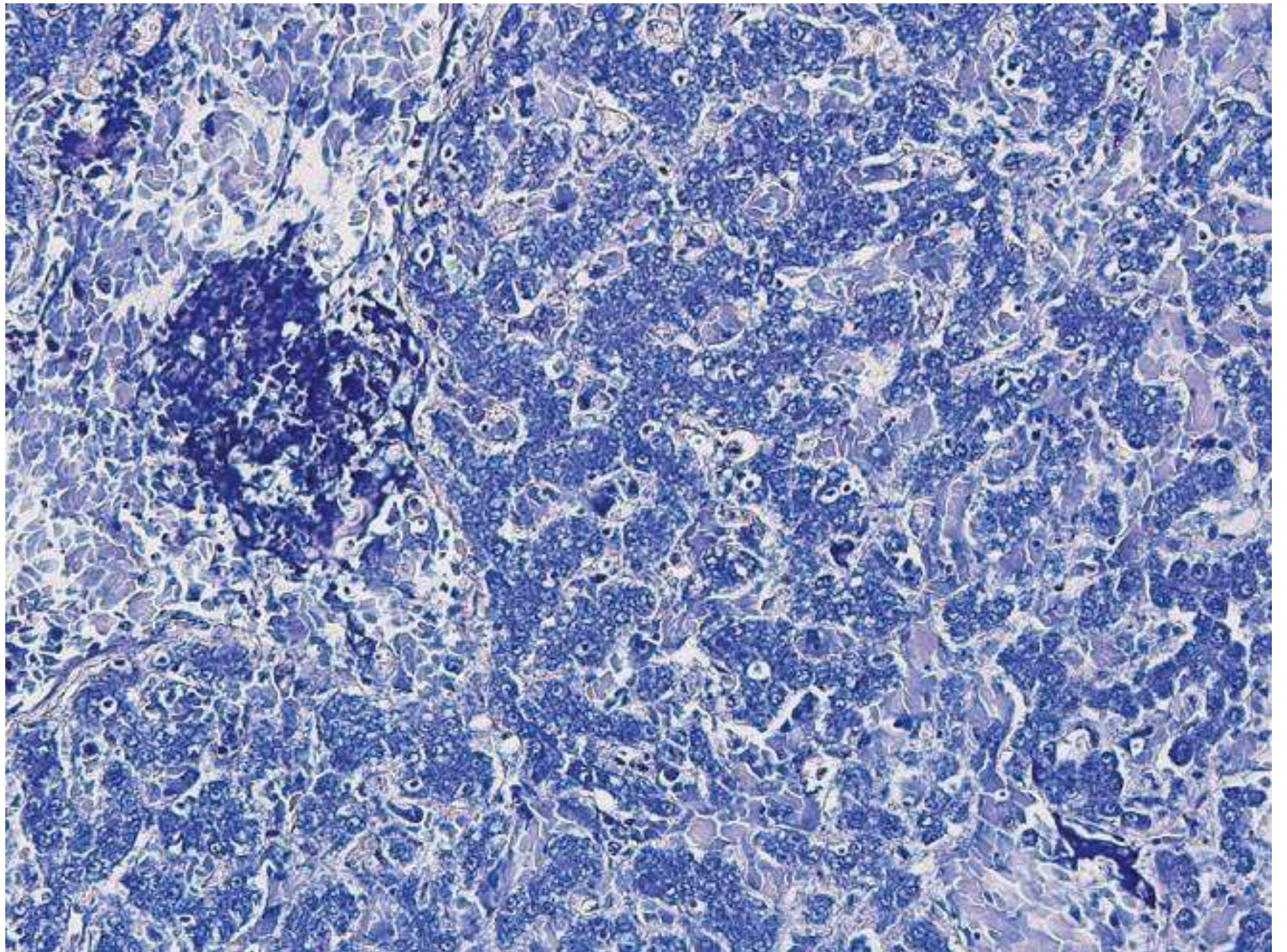
検査結果：内臓スワブから*Erysipelothrix rhusiopathiae* (4+)を分離

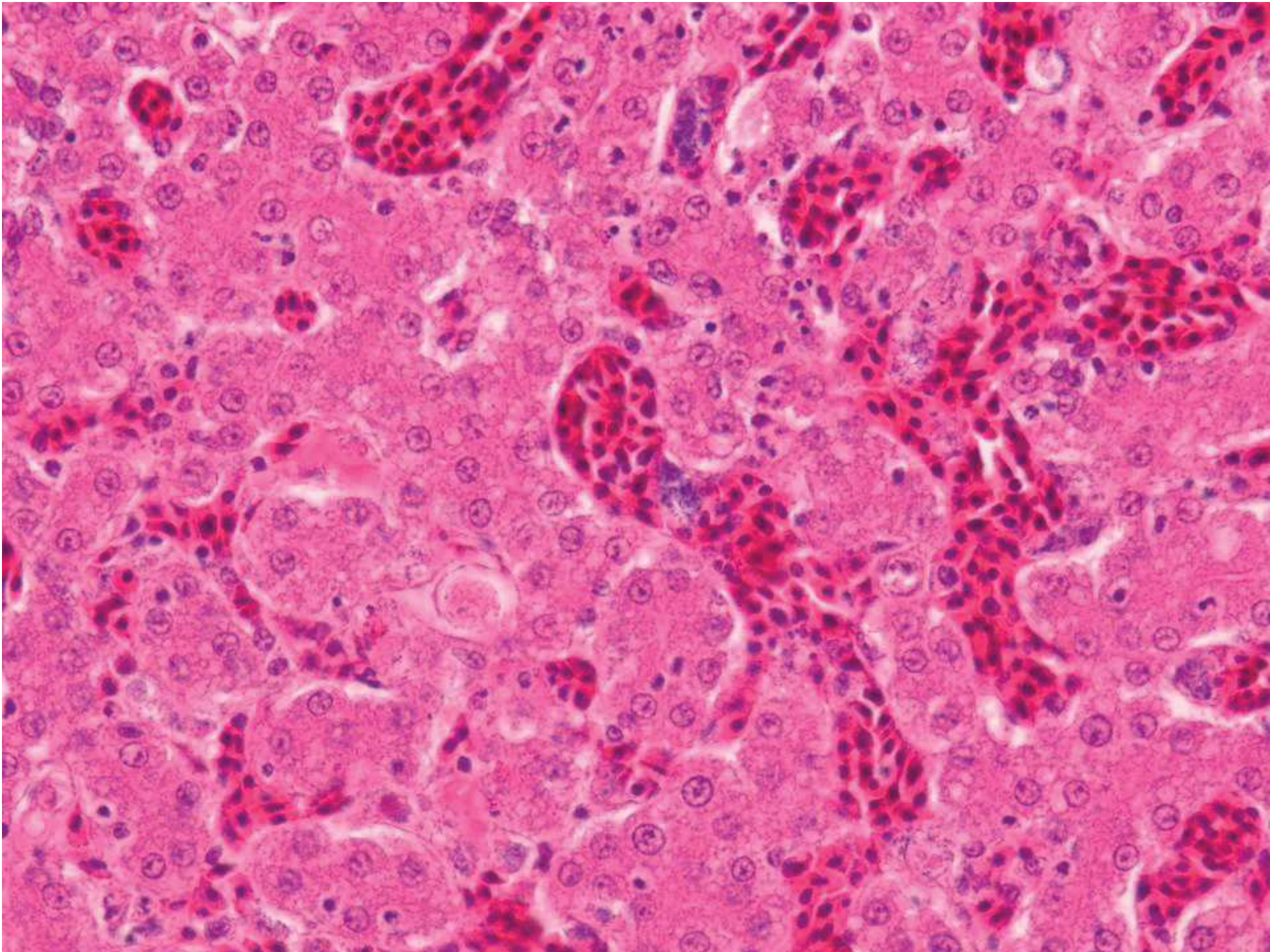


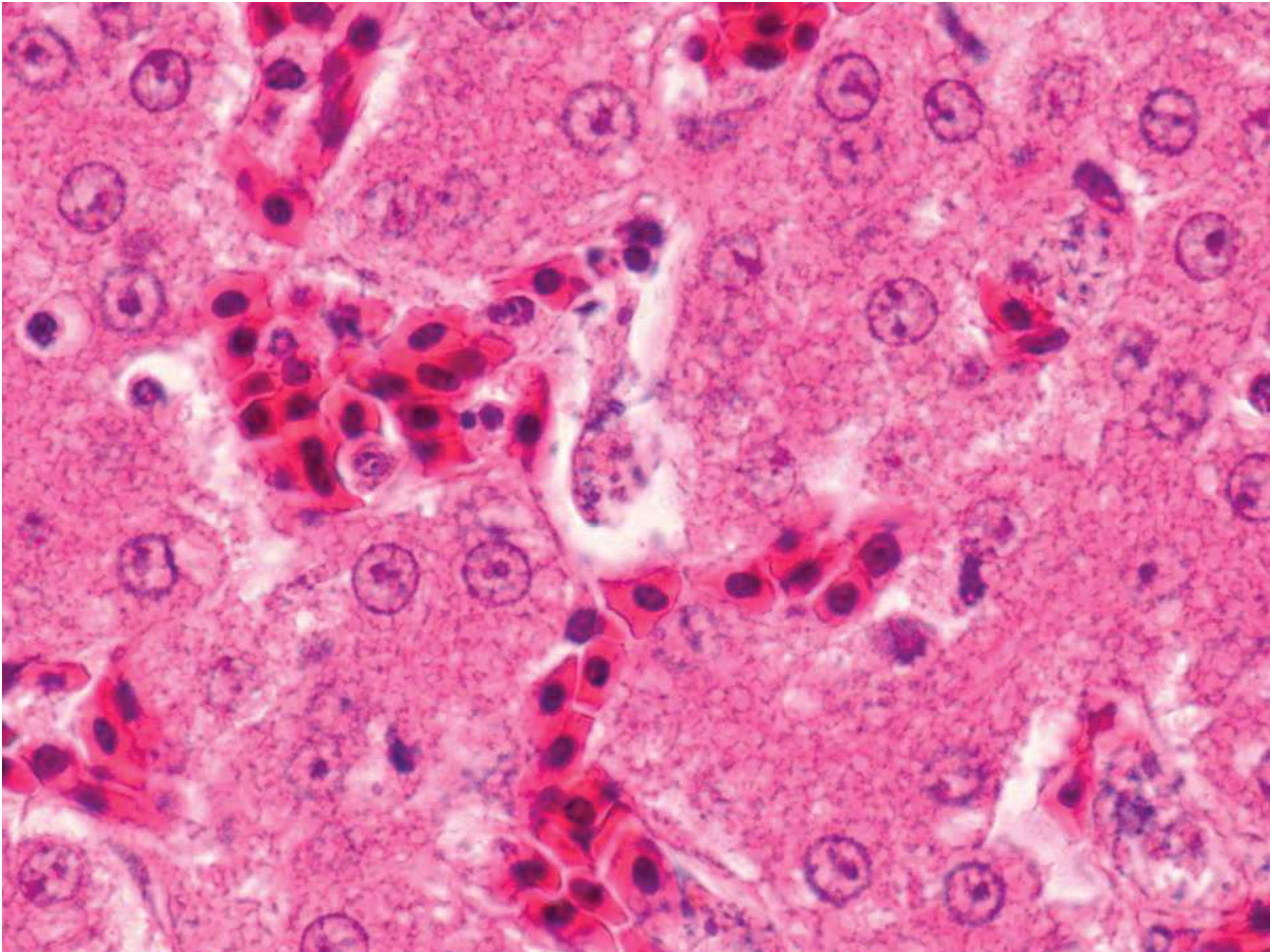


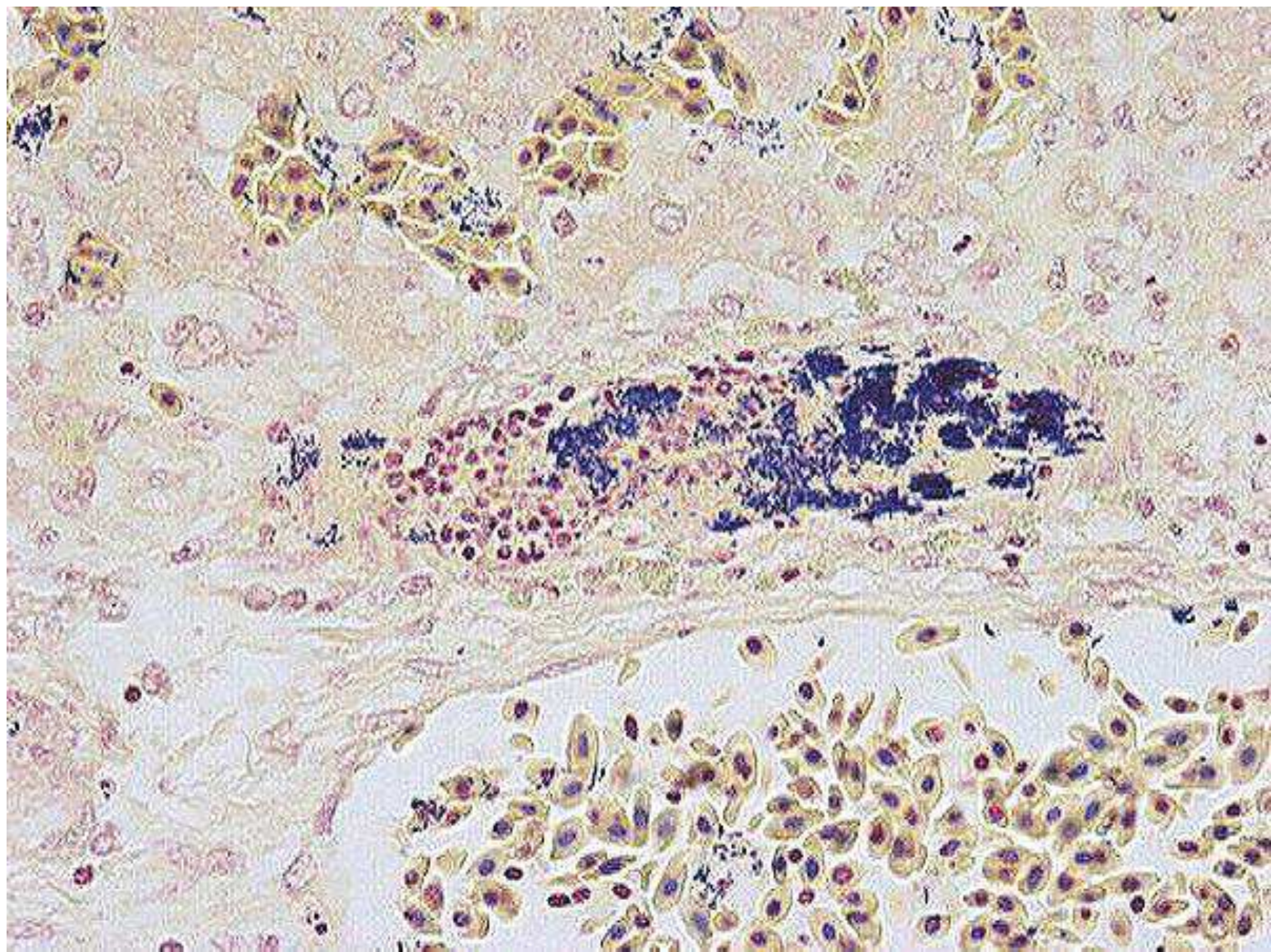


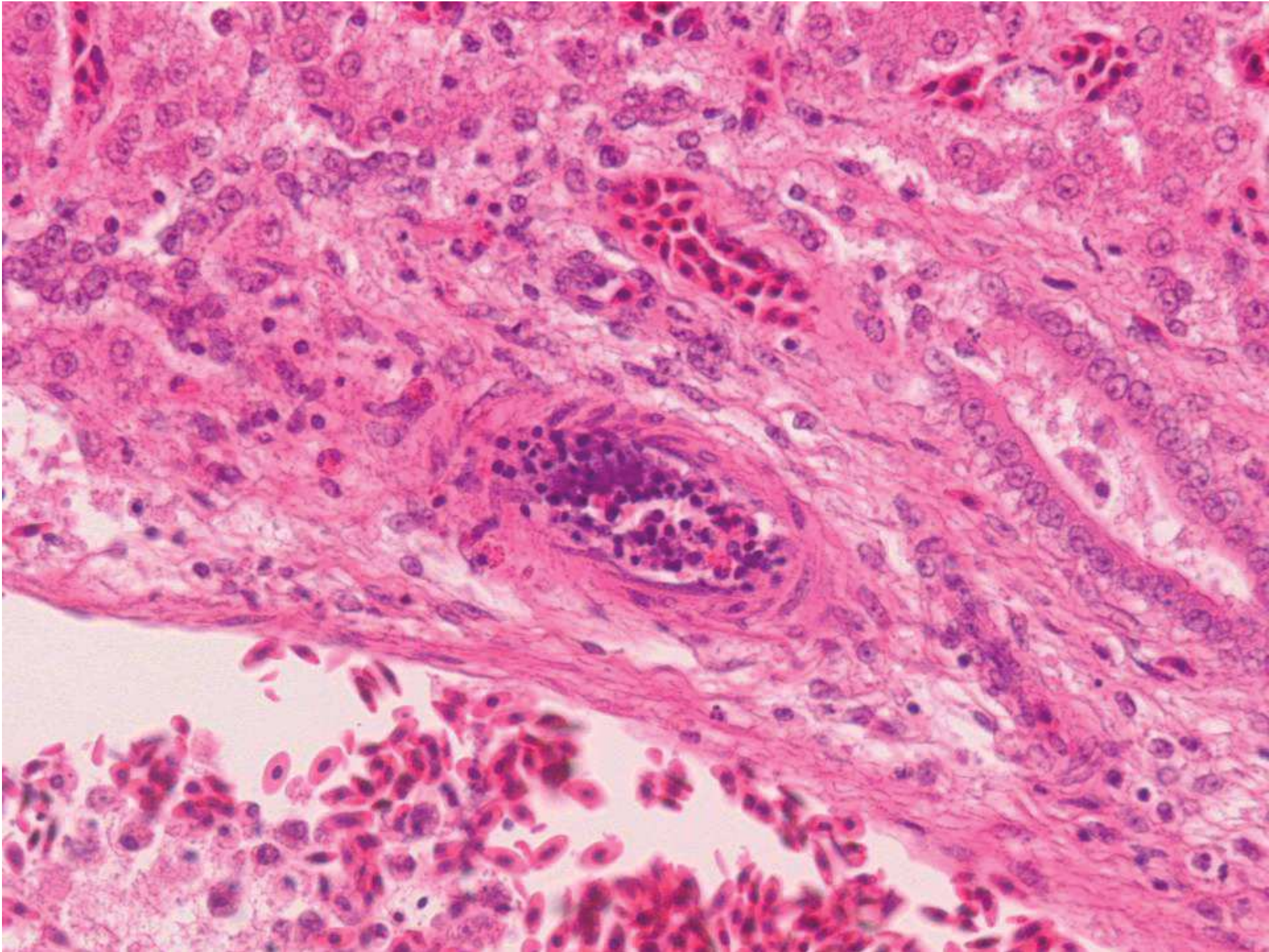












提出者の診断

肝臓：軽度の、急性の、多病巣性の、肝細胞壊死、壊死性血管炎および多形性の桿菌塊を含んだ血管内線維素血栓を伴う

肝臓：中等度の肝臓うっ血

Liver: Mild, acute, multifocal, hepatic necrosis with necrotizing vasculitis and intravascular fibrin thrombi containing colonies of pleomorphic rod-shaped bacteria.

Liver: Moderate hepatic congestion

JPCの診断

肝臓：肝炎、壊死性、急性、多病巣性、ランダム、敗血症性のフィブリン血栓と血管炎を伴う

Liver: Hepatitis, necrotizing, acute, multifocal, random, with septic fibrin thrombi and vasculitis.

提出者のコメント

- ・七面鳥で起こる*E. rhusiopathiae* 感染は高齢の雄で最もよく見られる急性敗血症疾病である。
- ・鑑別診断は*Escherichia coli*、*Salmonella* spp.、*Pasteurella multocida*による敗血症。
- ・晩秋から冬にかけてしばしば発生。
- ・菌は土壌で生存し、不衛生な床で飼育される七面鳥は反復発生のリスクがある。
- ・今回の場合、当該農場では*E. rhusiopathiae* 感染症の発生はなかったが、生産者所有の他の農場ではあり、農場間の機械的伝播が疑われる。
- ・ペニシリンは*E. rhusiopathiae* 感染症治療で有効な抗生物質。
- ・人での*E. rhusiopathiae* 感染は類丹毒が知られる。皮膚感染症が主で、手指に限局し、病変は蜂窩織炎。ほとんどが職業暴露（漁業関係者、獣医、農家、と畜労働者、肉屋等）。

会議のコメント

- ・ *E. rhusiopathiae*感染の大流行はヨーロッパの採卵鶏でも報告されており、野鳥でも散発的に報告。
- ・ 菌は長期間環境中で生存でき、傷口や経口的に感染の可能性がある。
- ・ 七面鳥は感受性が非常に高く、敗血症のような急性型だけでなく慢性型も起こる。
- ・ 発症した七面鳥では血栓塞栓症に加え、細菌性心内膜炎や関節炎が見られることもある。
- ・ 感染鳥の死体は肝、脾、腎の腫大や皮下組織・筋肉の斑状出血を示す。
- ・ 感染経路は媒介物、汚染土壌、媒介昆虫、無症状キャリア、汚染エサが考えられる。